参考資料１

第 60 回再エネ大量導入・次世代 NW 小委員会に関する意見

東京大学生産技術研究所　岩船由美子

本日所要により出席できませんので、意見書を提出させていただきます。

（資料 2）電力ネットワークの次世代化について

P2 のぽつ４つ目までの意見は、多分私が申し上げたものである。今回、特に西で低い B/C になっており、B/C が１を下回るということは、追加的な国民負担が必要、ということであるため、このまま進めるとするとすれば、丁寧な説明が必要であることを重ねて申し上げたい。

再エネの抑制率が減少する、ということは、増強のポジティブな理由となりうるが、今回追加された新たな情報にもとづけば、P17 より東地域の２ＧW増強に対し、63-101 億 kWh/年の抑制回避、P29 の関門の１ＧW増強に対し 2-11 億 kWh/年の抑制回避となっており、特に関門で再エネ利用増加量がかなり小さい結果となっている。これが、再エネ増加、ＣＯ２削減というニーズにこたえる増強といえるのか。系統 WG の推計結果と異なっている説明も一部示されているが、本来は、前提をそろえた議論がなされるべきではないか。これから始まる第７次エネルギー基本計画の議論等とも整合性がとられるべきである。増強前後で、何の電源が何 kWh 連系線を流れるのか、どこのどの電源と差し代わるのかに関しても、しっかり情報を見せてほしい。

今後需要の想定も大きく変わってくる中で、立地誘導やデマンドレスポンスなど、需要側の対策の費用対効果とも本来は比較される必要があると思う。

以上よろしくお願いいたします。